

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	フィールドワーク論 Study on Anthropological Fieldwork			担当 教員	紙村 徹 (専 任)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	共通科目 研究方法科目	授業形態	講義・演習
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>本授業では、文化人類学における基礎資料となるエスノグラフィー（民族誌）記述のための調査研究方法としてのフィールドワークについて研究することを目的とする。授業の進め方は、講義形式とゼミナール形式とを併用する。学生に余力があれば、看護体験のエスノグラフィーを記述してもらいたい。</p>					
授業のキーワード		文化人類学、野外調査、フィールドワーク、調査研究法、エスノグラフィー					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回 ～ 第15回	<p>授業はおおよそ以下の項目に従って進める。</p> <p>I：授業の目的・進行方法 II：フィールドワークとは、フィールドワークの概念（講義） III：フィールドワークの実際（講義とスライド） IV：フィールドワークの理論（教材を使ったゼミナール） V：異文化理解の問題点（教材を使ったゼミナール） VI：民俗概念と分析概念（講義） VII：情報の収集・整理（教材を使ったゼミナールあるいはフィールドワーク実習） VIII：調査における倫理の問題（教材を使ったゼミナール） IX：応用（社会調査と国際開発プロジェクトについて、教材を使ったゼミナール） X：応用（マイクロ・エスノグラフィーの記述と分析、教材を使ったゼミナール） XI：クリフォード・ギアーツのローカル・ノーレッジ論</p>						
テキスト	<p>随時提示する。</p>						
参考文献	<p>随時提示する。 ただし、アーサー・クラインマン『病いの語り』（誠信書房）を教材の一部として使用</p>						
成績評価の方法	<p>期末レポート1回（自由発表形式）</p>						
教員から学生へのメッセージ	<p>フィールドワークをマスターするには、古来の戦（いくさ）に喩えると、机上で軍学を学ぶよりも、初陣で功名をたてることに始まり、その後の敗走を繰り返しながら、幾度も戦場の場数を重ねるに如くはないと思われます。これをもっとも重要な前提としつつ、あえてフィールドワークを理論的に考察し、その意義と問題点を探ることを目指します。（英文教材も使用）</p>						